

シニアバスケットボール 酒田市八幡カップ大阪大会

第13回 酒田市八幡カップ
全国スーパーシニアバスケットボール交歓大会

第6回 酒田市八幡カップ
全国ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会



日時:平成28年10月28日～30日

会場:大阪市中央体育館

帯同チーム:福岡スーパーシニア

福岡ゴールデンシニア

帯同者:渡辺裕介 リハビリテーション部副部長

橋浦理香 理学療法士

1日目 10月28日(金)

- 福岡スーパーシニア
対 群馬代表チーム



両チームともゴールに嫌われて、なかなか点が決まらない状態でスタート！ベンチからもゲキが飛びます。少しずつ、選手の身体も温まり、ボールが繋がります。各選手が得意なポジションからのシュートが決まりだし、ディフェンスも機能してきました。終盤は、足が止まりだす場面もみられましたが、最終的には見事に勝利！！

ディフェンスから作る福岡のバスケが機能し、初戦突破！！



- 福岡ゴールデンシニア
対 広島代表チーム

本大会へのゴールデンシニアの参加は初です。スタートから1ゴール差のまま終盤まで、もつれます。シーソーゲームが続く中、どちらも引かない展開になりましたが、最終的にはその接戦をものにしました！！

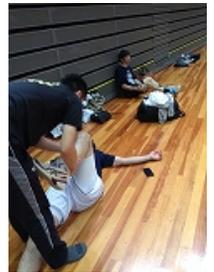
明日は、福岡スーパーシニア、福岡ゴールデンシニアともに2回戦です！！

2日目 10月29日(土)

- 福岡スーパーシニア
対 岩手代表チーム



2日目は、痛み、疲労との戦いから始まります。それぞれが入念なストレッチからアップが始まりました。序盤から相手にリードされる展開であり、大差にはなりません、なかなか逆転できません。速攻のチャンスを何度もつくりましたが、ゴールにも嫌われて得点につなげることができず、惜敗となってしまいました。



- 福岡ゴールデンシニア
対 東京代表チーム

福岡チームにはスーパーシニアとの兼任をする選手もいるため、スーパーシニアでの悔しさをぶつける形となりました。しかし、点差は徐々に開き、速攻のチャンスもパスミスでものにできなかったりと、流れが相手チームにある状態で試合終了となってしまいました。今までの練習の成果を出し切ることができなかった、悔しい結果になってしまいました。

試合後は、常に反省会が各場所で行われておりました。今回は大阪での開催ということもあり、会場へは公共交通機関での移動をされることが多かったため、その移動でも痛みや疲労を強く感じている選手も存在し、その状況に備えた準備ができていなかった選手もいたようでした。

トレーナーブース

体育館内の一角に、トレーナーブースが設けられていました。

そこでは、理学療法士の方が代表をつとめており、大阪の専門学生とともに、選手のコンディショニングを行っていました。その内容は、マッサージ、ストレッチ、テーピング、アイシング等であり、問診票に記入されている選手からの要望に応じていました。



代表の方に話を聞いてみると...

大阪府のバスケットボール協会からの依頼に応じていると、高校生や実業団の大会でも行うことがあるとのこと。大阪府全体としても、予防やコンディショニングの必要性を理解されていることから生まれているものであるように感じました。話の中では、バスケットボールの指導者の中には、ケガをしても我慢をさせるという考えが染み付いており、ケガを防ぐための取り組みが必要と考えているということも聞き、考えさせられました。

また、なんとこの理学療法士の方は、当院で手術をし、大阪の大学で活躍された患者さんを復帰に向けて担当したという方でした。思いのほか、会話が花が咲いたできごとでした。今後も、選手達のケガの予防やパフォーマンス向上のためにできることを考え、実施していきたいと感じました。

感想

今回の大会は、3日間開催日があるうちの2日目で敗退という結果となり、悔しさと、反省の残る大会でした。

選手からは、準備不足の声や、昨年勝利した相手であったため、勝利できるだろうという気持ちの状態で臨んでしまったという意見もあり、何年もバスケットボールを経験していても、一つ一つの試合や大会ごとに生まれる新たな反省があることを感じました。また、今後も継続するバスケットボールに対して、常に向上心をもって活動されているシニアの選手の姿をみることができました。

帯同、サポートとしても、準備をしっかりと行い、選手の力を最大限に引き出せるような存在になりたいと感じました。